

肘関節疾患治療の最近の進歩

このたび、「肘関節疾患治療の最近の進歩」として特集を組むこととなった。肘関節は他の大関節と比較して、注目されることも、特集として取り上げられることも少なく感じる。しかし重要な関節であることはいうまでもない。肘関節の疾患は外傷から慢性疾患まで様々であるが、注目されることが少ないためか、他の大関節と比較して、新規治療への取り組みもまだまだ不十分と考える。そのようななかでも、積極的に新規治療ないし治療法の改善に取り組んでおられ、学会等で積極的にその成果を発表しておられる先生方に、それぞれ執筆していただいた。

外傷分野では、肘頭後方脱臼骨折に対する治療戦略を檜崎先生に、また肘頭後方脱臼骨折に対するユニバーサル後方アプローチによる suture button pull-out 法を吉田先生に執筆していただいた。肘頭後方脱臼骨折は治療に難渋することのある骨折であるが、それぞれの先生が先進的に取り組んでおられる治療法を概説していただいた。

また軟部組織損傷として、肘関節内側側副靱帯損傷に対する Repair with Internal Brace 手術を島村先生に解説していただいた。野球選手に対する肘関節内側側副靱帯再建術のコツと工夫については高橋先生に詳説していただいた。野球選手をはじめとする throwing athlete は、肘関節を痛めやすく、それらの選手に対する外科的治療は肘関節外科において重要な治療分野である。

同様に若年の野球選手に代表的にみられる上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する治療法を、門間先生と岩瀬先生に解説していただいた。いずれの先生の取り組みも先進的な治療といえ、その治療結果を注視したい。

さらに肘関節で最もよくみられる疾患である肘部管症候群について、鏡視下手術法を宮岡先生に解説していただいた。よくある疾患ではあるが、治療法にはまだ議論の余地がある疾患であり、今後さらに治療法が進歩していくことを願う。

最後に慢性関節症に対する鏡視下関節形成術について塩出先生に、人工肘関節全置換術の合併症を防ぐ工夫について岩本先生に執筆していただいた。変形性関節症および関節リウマチにおいて肘関節は比較的罹患頻度が高いことが知られているが、実際に手術に至る患者は少ない。そのために外科的治療における先進的な取り組みも少ないように感じる。少しでも治療法を改良し、合併症を減らす工夫が重要である。

それぞれ治療分野は異なるが、重要な関節である肘関節に起こる外傷や慢性疾患に対して、より良い治療法を検討し、その考え方を提供するものである。読者のみなさんがこれらの論文から日常診療におけるヒントを得ていただければ幸いである。

(伊藤 宣)